

葦穂小学校・吉生小学校・柿岡小学校 統合再編に係る説明会 要旨

日時 令和3年6月23日(水) 午後3時30分から午後4時40分

場所 吉生小学校 体育館

執行部 児島教育長，豊崎部長，吉澤次長，朝賀参事，小沼教育総務課長，
須加野指導室長，小河原副参事，雨貝課長補佐，佐藤主幹

出席者 34名

次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 職員紹介
4. 統合再編計画に係る説明
資料
 - ・石岡市立小中学校統合再編計画
 - ・小中学校年度別将来推計(別紙)
5. 質疑応答
6. その他
7. 閉会

次第に沿って、4. 統合再編計画に係る説明まで行う

(参加者)

複式学級の問題点とは？

(事務局)

現在の教育においては、一方向・一斉型の授業だけではなく、子供たちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う活動など、協働的な学習を通じて、意欲や知的好奇心を十分に引き出すことが求められています。

また、「言語活動の充実や、グループ学習、ICTの積極的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善を通じた協働型・双方向型の授業」必要だといわれています。

学級の児童生徒数が余りにも少ない場合、班活動やグループ分けのパターンや、協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じることから、こうした新たな時代に求められる教育活動を充実させることが困難になるといった課題もあります。また、人間関係等が崩れてしまった場合に、学級数が複数あることでそれを変えることができると思います。統合によって教員数も増え、多面的に子どもたちを見ることができるといったメリットもあります。

(参加者)

学校の規模が大きくなったときの問題点とは？

(事務局)

統合した際のデメリットとしては、学校規模が拡大することに伴い、児童生徒の学習環境や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、現状よりひとりひとりに目が行き届きにくいといった面もあるかもしれません。しかし、学校の教員数も増えるため、多面的な観点で指導することが期待できます。また、統合したことによって不安をかかえたり、自分を出しづらいついたこともあるかもしれませんが、沢山のひとと関わることで社会性等が身に付けられるとも考えております。

(参加者)

コロナ禍では小規模ということはメリットになり得るのではないかと？その中でも統合を進めていく目的は、小規模校を維持していくのが市の財政負担になっているからではないのか？統合再編計画の中で、お金の話は全く触れられていない。

(事務局)

統合再編計画については、子どもたちの教育の視点で作成しており、学校施設個別施設計画の中での修繕計画との整合性を図りながら、現在進めさせていただいているところです。

(事務局)

全国的に公共施設の数減らしていこうという動きはございます。コスト面でとのお話をさせていただくと、学校施設個別施設計画において維持管理する学校の数が減ることによって、40年間で平均で年間数億円のコスト削減という試算はされております。

(参加者)

これまで統合した学校において、児童生徒の心のケアはどう対応していたのか？また、今後の対応はどのように考えているのか？

(事務局)

ひとつの例として、学校行事等において統合予定校の児童同士の交流を行う事前交流の行事などでコミュニケーションを図り、スムーズな人間関係の構築が図れるよう配慮していくといったことや、学習規律や生活規律等に関するルール、生徒指導の方針・基準等について学校間で調整するなどしながら、統合する前に不安感を取り除けるよう対応したいと考えております。

統合後の心のケアとして、中学校区にスクールカウンセラーが週に1回来ているので相談したりといったことを考えております。

(参加者)

統合することにより、教員の配置は専科制を取るのか？

(事務局)

学校規模に応じて、専科教員の配置が可能となります。また、統合校に各校の教員が全く配置されないといったことが無いような配慮も必要になってきます。

(参加者)

柿岡小の施設修繕はきちんと行われるのか？

(事務局)

柿岡小校舎そのものが49年を経過していることから、老朽化についてはご指摘もいただいているところです。平成30年度までに児童のトイレの改修を行っており、安心安全に教育活動が行われるよう必要な修繕については行ってまいります。

(参加者)

具体的な統合時期は決まっているのか？

(事務局)

計画では令和6年4月の統合を目指しております。

(参加者)

低学年と高学年では時間割が違う。スクールバスの台数や帰りの時間は決まっているのか？

(事務局)

具体的な部分に関しては、今後の検討委員会や専門部会で協議してまいります。かすみがうら市の例として、高学年の授業が終わるまで先生に見てもらうといった形がございます。

(参加者)

第2段階での統合まで築年数の古い柿岡小を使用する計画となっている。10年後、20年後まで建物の健全性は問題ないか？

(事務局)

安心安全に教育活動が行われるよう必要な修繕については行ってまいります。学校施設個別施設計画において、校舎の健全性については比較的良いとされております。

(事務局)

補足として、劣化状況の評価が低い部分などを必要に応じて修繕し、使用していければと考えております。

(参加者)

令和6年度に第1段階の統合というのは決定事項か？また、今の学校配置のまま1回で八郷地区の小学校をひとつにすることは出来ないのか？

(事務局)

統合検討委員会での決定となります。統合に向けた新設校の設置に際し、保護者や地域との協議や用地買収などの問題が生じてまいります。用地の選定から買収までとなれば相当の期間がかかる可能性があります。その間も複式学級を抱える学校があり、子ども

たちの教育環境を整えるといった意味での第一段階での統合とご理解いただければと思います。

(参加者)

比較的新しい葦穂小学校への統合は不可能なのか？

(事務局)

葦穂小学校の規模では3校の児童を受け入れることが出来ません。

(参加者)

柿岡小と比べて、吉生小の建築評価は？また、耐震評価と補強はされているのか？

(事務局)

吉生小の令和2年3月現在の評価としては、屋根部分など早急な対応が必要とされております。耐震については、市内全校において健全性を保っております。

(参加者)

他校などの事例として、複式学級を抱える学校から人間関係のトラブルの報告は？

(事務局)

現状として、報告は挙がってきておりません。小規模校から中学校に上がる段階において不登校傾向になるといったケースはあるので、その前の段階である程度の規模の集団生活に慣れておくということも選択肢としてはあるのかなと考えております。

(事務局)

今回、説明会に参加出来なかった方からの質問にお答えいたします。コロナ禍の中で、今後同じような状況になった時にどのような対応をしていくのか？

(事務局)

学校再開ガイドラインに則り、各学校と連携しながら行事等を含め運営を進めてまいります。

(参加者)

統合アンケートの設問について。統合するといったことは決定していて、それに対して「理解できる」「理解出来ない」といった理解を求める内容だった。

(事務局)

統合については、あくまでも計画案としてお示ししております。最終的な決定は統合検討委員会で行っていただきます。アンケートの設問については、ご指摘の「統合した方が良いと思う」といった形で設問が違えば結果も変わった可能性もあったかもしれません。

(参加者)

小学校の持つ機能の一つとして避難所が挙げられる。跡地活用について部署をまたぐ検討はされているのか？

(事務局)

統合が決定した後に進めていきたいと考えておりますが、その他の事例として旧城南中学校と旧有明中学校は各部局からの意見をとりまとめ、方向性について市長・副市長に相談していきたいと考えている段階です。

(参加者)

統合にはコストの問題が絡んでいるのではないか。

(事務局)

学校の数が減ることはコストの削減に繋がることが考えられますが、根底には文部科学省の小中学校の適正規模・適正配置の手引きを基に、統合再編計画と整合性をもった改修計画を立て行っていくという形になります。

(参加者)

現在と未来の子育て世代に提示したい教育環境のビジョンと統合の関係性について。

(事務局)

GIGA スクール・協働型・双方向型の授業を行うにあたって、子供たち同士の様々なやりとりが必要になってくる。その環境を整えていくことが必要となり、それに伴い適正規模・適正配置も進めていくことと考えております。

(参加者)

統合検討委員会の委員の選出方法はどのようになるのか？

(事務局)

各学校のPTA役員の方々などとも相談し、委員構成を決め、各団体から推薦いただく形になるかと考えております。